
第15回愛媛形成外科研修会

抄 録 集

日 時 平成17年6月18日(土) 17時～
場 所 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
管理棟2階会議室
TEL : 089-932-1111
当番世話人 愛媛大学医学部皮膚科 (形成外科診療班)
中岡 啓喜

愛媛形成外科研修会

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第1回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	松山成人病 センター	平成10年 7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会 研修所	平成10年 12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病 センター	平成11年 6月19日	20名
第4回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年 11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年 6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年 12月9日	20名
第7回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年 6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年 12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年 6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年 12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年 6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年 12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年 6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年 12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年 6月18日	

第15回 愛媛形成外科研修会

研修会

1. 受付は当日 16 時 30 分より会場で行います。車でお越しの方は、会場受付で無料駐車券をお配りします。
2. 参加費は1,000円を申し受けます。
3. 演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取りください。
4. 討論時間は、一題あたり 5 分を予定しております。
5. 発表形式はWindows Power PointによるPCプレゼンテーションをお願い致します（当日はCD、USBメモリーにてご持参下さい。）

研修会総会

18 時 50 分から会場で行います。

連絡先

〒791-0295

東温市志津川

愛媛大学医学部皮膚科
(形成外科診療班)

中岡 啓喜

TEL 089-960-5350

FAX 089-960-5352

hirok@m.ehime-u.ac.jp

研修会プログラム

SECTION I 1～4 (17:00～17:40)

座長 河村 進 先生

1. 口腔ケアによる頭頸部再建の術後合併症の減少

静岡県立静岡がんセンター 形成外科 ○中川 雅裕、福島 千尋、
飯田 拓也、舘 一史、
同 歯科・口腔外科 大田洋二郎、小西 哲仁、
秦 浩信、上野 尚雄、
栗原 絹枝、金 千華
(5分)

頭頸部癌患者では、口腔内の不衛生状態により口腔内の細菌数が増加していることが多い。このような状態で頭頸部癌の再建手術を行うことにより、創感染、瘻孔形成、誤嚥性肺炎等の合併症が発生すると考えられる。われわれは、頭頸部再建の術前・術後に歯科医、歯科衛生士、看護師による口腔ケアを行っている。当院と他院（口腔ケアを行っていないがんセンター）の合併症等を比較して検討を行った。

2. 下咽頭癌咽喉食摘後の Pectoral arcade flap による 一期的食道再建

四国がんセンター 頭頸科 ○堀 泰高、門田 伸也、
内田 浩志、藤沢 琢朗、
江口 元治

同 形成外科 河村 進、前場 崇宏

(5分)

下咽頭癌における咽喉食摘後の再建皮弁には術後合併症、食事摂取状態の面から遊離空腸が第一選択となるのは周知の事実だが、遊離空腸が使用できない場合や、空腸壊死に対する salvage 手術では各種筋皮弁を用いて対応せざるを得ない。当科では主に大胸筋皮弁を用いていたが、術後吻合部狭窄に苦慮する事が多かった。今回 pectoral arcade flap による一期的再建を行い経過良好な一例を経験したので報告する。

3. 中間唇と口輪筋の再建を2次的に行った

完全両側唇顎口蓋裂

愛媛県立中央病院 形成外科 ○徳永 和代、小林 一夫、
平田礼二郎、川浪 和子
おがた形成外科 緒方 茂寛

(5分)

両側唇裂に対しては、Veauの変法やManchester法にて、一回の手術でバランスのよい口唇、深いgingiva-labial sulcusの作成を目指してきた。しかし、中間唇の赤唇部を残すことなく使用し、口輪筋の再建が出来ない症例がほとんどであった。そのためwhistle deformity、赤唇部色の不調和、口輪筋の膨隆や鼻孔の拡大が残存している。今回、中間唇の赤唇部の切除と口輪筋の再建を16才、18才で行ったので報告する。

4. 後頭部に生じた巨大腫瘍の手術経験

愛媛労災病院 形成外科 ○黒住 望、徳井 琢

(3分)

後頭部に生じた巨大腫瘍の一例を手術する経験を得た。症例は46才女性。腫瘍は7年間放置されていたが、巨大化したため切除を希望して来科。術前のCT検査では、境界明瞭な腫瘍であったが、診断不明のまま、全麻下に摘出したところ病理学的には隆起性皮膚繊維肉腫と診断された。臨床像とこの診断名は一致しないように思えた症例であり、症例を供覧したい。

SECTION II 5 ~ 8 (17:40~18:15)

座長 小林 一夫 先生

5. 腱膜性眼瞼下垂症に対する腱膜固定法 (第一報)

済生会今治病院 形成外科 ○手塚 敬

(5分)

平成16年秋より、腱膜性眼瞼下垂症に対し、信州大学式の腱膜固定法を行っている。現在まで24症例45眼瞼に施行した。半年を経過した症例がわずかなので、今回は、症例の集め方、診断方法、術中所見を中心に報告する。

6. AVM、proliferating phase hemangioma を疑った 乳児の1例

愛媛大学医学部附属病院 (形成外科診療班) ○青木 恵美、大塚 壽、
中岡 啓喜、永松 将吾、
戸澤 麻美、光野 乃祐

(3分)

10ヵ月、男児。生後1ヵ月時、上口唇に虫刺様皮疹が出現。同部の皮下腫瘍が拍動を伴い急速に増大した。臨床症状よりAVMを疑い、生後3ヵ月及び生後5ヵ月時に硬化療法施行。生後8ヵ月より腫瘍の縮小が見られた。

7. 脳瘤を伴う rare craniofacial cleft の 1 例

愛媛大学医学部附属病院（形成外科診療班） ○戸澤 麻美、中岡 啓喜、
永松 将吾、青木 恵美、
光野 乃祐、大塚 壽
(3分)

4カ月、男児。出生時から両側完全口唇裂、左鼻翼および鼻孔の欠損、左眼球欠損、脳瘤（前頭蓋底部）を認め、Tessier classification NO.2またはNO.3 cleftと考えた。現在、右眼瞳孔は pinpoint pupil を示し、脳ヘルニアも疑われる。頻回の誤嚥性肺炎の発症などのため、口唇裂手術は待機中である。稀な症例と思われるので、諸先生方のご意見を伺いたく供覧させて頂く。

8. 壊死性筋膜炎と思われた 1 例

松山市民病院 形成外科 ○森 秀樹、原田 雅奈、
大塚 壽
(3分)

20歳女性。発熱と左下肢の脱力感を訴え受診。舌の発赤・びらんと左殿部に軽度の発赤を認め、CTでは殿部蜂窩織炎が疑われた。しかし肝機能異常とCPKの著明な上昇を認めたため、翌日緊急手術を行った。術中所見では、大臀筋と筋膜の一部に壊死を認めたが、細菌培養は陰性であった。

SECTION III 9～12 (18:15～18:50)

座長 中岡 啓喜 先生

9. リンパ浮腫外来の現状

四国がんセンター 形成外科 ○河村 進、前場 崇宏
同 看護部 杉本めぐみ、大西ゆかり、
西岡 久美
(5分)

16年4月にリンパ浮腫外来開設を仮設して1年が経過した。毎週火曜日午前に特殊外来として医師の診察及びWOC認定看護師によるスキンケア指導をおこなう。午後にリンパマッサージ講習受講者によるリンパマッサージ指導を行なっている。木曜日の午前にはがん性疼痛看護認定看護師による弾性ストッキング、スリーブ着用指導などを行なっている。リンパ浮腫は総合的な複合理学療法が可能であれば手術治療が必要な症例は少ないと考える。

10. フィブラストスプレー®で治療した 小児深達性2度熱傷例の検討

愛媛県立中央病院 形成外科 ○平田礼二郎

(5分)

ヒト bFGF (塩基性線維芽細胞増殖因子、商品名フィブラストスプレー) は、様々な潰瘍への治療効果が報告されている。強力な血管新生作用、肉芽形成促進作用により、難治性潰瘍に対して治療効果を認め、近年潰瘍治療薬として使用頻度が高まりつつある。特に治癒後の瘢痕形成が軽度あるいは早期に改善する症例が多い。小児の深達性2度熱傷に使用し良好な結果を得た4症例を報告する。

11. シリコンジェルシートが瘢痕拘縮予防に 有効であったと考えられる3度熱傷の1例

皮膚科・形成外科はらだクリニック ○原田 伸

(3分)

1歳女児 転倒し、ホットプレートの電熱線に両手を触れて熱傷を負う。保存的に治療し、表皮形成後シリコンジェルシート貼付を開始する。受傷後約1年6ヶ月経過した現在まで著名な瘢痕拘縮を認めない。

12. 安価な歯科矯正用ワイヤーを用いた巻き爪矯正

十全総合病院 形成外科 ○古泉 佳男

(3分)

巻き爪に対するワイヤー矯正法は簡便で効果的であるが、爪矯正用の超弾性ワイヤーは未だ高価である。今回、安価な歯科矯正用ワイヤーを用いて巻き爪の矯正を行ったところ、良好な結果を得た。

愛媛形成外科研修会総会 (18:50-19:00)